

平成30年度危機管理対応訓練の実施結果について

1 目的

本訓練は、「文京区地域防災計画」、「文京区職員防災行動マニュアル」及び「文京区事業継続計画【震災編】」等に基づき、勤務時間内に首都直下地震が発生したことを想定し、災害対策本部編成員を対象に災害対策本部運営図上訓練（以下「図上訓練」という。）を行い、職員の危機対応能力の向上を図ることを目的とする。

2 実施概要

(1) 実施日時

平成30年12月19日（水）午後1時30分から午後4時45分まで

(2) 実施場所

15階防災センター、16階庁議室及び各職場

(3) 内容

東京湾北部を震源とする最大震度7（文京区は最大震度6強）の地震が夏季の勤務時間内に発生したとの想定で、防災センター参集職員の対応能力向上に重点を置き、図上訓練を実施した。図上訓練では、開始から1時間後まではシナリオを開示し、その後はシナリオを伏せて進行した。

各職場の自席参加の職員は、防災センターの図上訓練で使用する「職員動員名簿」を作成し提出するとともに、「すぐやるリスト」、「TODOリスト」の内容確認を行った。

(4) 参加者（197人）

区長、副区長、教育長	
災害対策本部編成員から事前に指定した職員	76人
訓練受託者	12人
関係機関（警察、消防、東電パワーグリッド）	8人
自席参加の職員	98人

3 前回の図上訓練（平成28年12月16日実施）からの主な改善点

(1) 全体

- ・すぐやるリストに加えて、TODOリストを作成し、各課に事前に周知して、内容の確認と修正を求めた。

(2) 防災センターにおける訓練

- ・情報共有が図れるよう、中央に配置した文京区の大地図の表示方法の見直しを行うとともに

に、タブレットの活用を図った。

- ・ 災対各部で情報収集・分析、災害応急対策の立案・調整が円滑にできるように体制等の見直しを図った。

(3) 自席における訓練

- ・ 自席参加の職員は、課ごとに職員の所在・安否を確認して職員動員名簿を作成し、図上訓練の追加派遣等移動計画の根拠とするため、時間厳守で災害対策本部へ提出した。

4 関係機関及び受託者の講評

- (1) 以前に実施した同様の訓練と比較して、練度が向上し災対各部とも、各部間の調整を含めて円滑な対応ができていた。
- (2) 災害時には、警察や消防には限られた情報しか入ってこないと想定されるため、区と情報共有を図り、協力して対処していきたい。
- (3) 付与された被害状況だけに対応しては、全体の応急復旧対策が疎かになる懸念がある。特に災対本部事務局には、夜間や翌日に向けて対応方針を定めるための情報収集や体制作りを念頭に置いて活動することが求められる。

5 臨時災害対策本部開設訓練

(1) 実施日時

平成30年12月20日（木）午後5時15分から午後6時15分まで

(2) 実施場所

15階防災センター

(3) 内容

防災職員住宅に居住する職員のうち、本部班編成員を対象に臨時災害対策本部開設訓練を行った。始めに防災職員住宅入居者の職務等について説明した後、勤務時間外の発災を想定して、防災センター到着後に職員が行うべき作業を示したミッションカードを活用し、臨時災害対策本部の開設（情報機器の起動、レイアウト変更等）を行った。

(4) 参加者（29人）

防災職員住宅に居住する本部班の職員 14人

危機管理室の職員 15人